

§ 5 学力検査問題等研究協議会における主な意見

1 自己推薦の実施について

中学校では、出願先高等学校のスクール・ポリシーを理解することが前提となったことで、生徒の自己理解など人間形成についての指導がしやすくなったり、意欲的に進路活動に取り組む生徒が増えたりした。高等学校では、自己推薦の導入が、合否判定基準やスクール・ポリシーを見直し、目指す学校像やカリキュラム・マネジメントについての教員間の共通理解を深める契機となった。

2 学力検査問題について

- ・ 国語では、出題内容や難易度、配点のいずれも適切であった。今後は、思考する時間や記述する時間を考慮し、出題形式や基礎的・基本的な問題と思考力、判断力、表現力等をみる問題のバランスを工夫してほしい。また、記述式問題の正答例と採点基準について一層工夫するとともに、中学校における学習の状況に応じた問題構成や古典の扱いについて配慮してほしい。
- ・ 数学では、既習の内容から条件を変えて新たに問題を設定し考察するなど、数学の事象から問題を見だし考察する問題が適切に出題されていた。今後も、日常の事象や社会の事象を数理的に考察したり、得られた結果を振り返り統合的・発展的に考察したりする力や、数学的な表現を用いて論理的に説明する力をみる問題の出題形式について、一層工夫してほしい。
- ・ 社会では、史資料等から情報を読み取り、既習の知識と関連付けて思考・判断する力をみる問題が適切に出題されていた。今後は、受検者が思考・判断する時間を確保するためにも、特に大問1において、基礎的・基本的な知識及び技能を習得しているかをみる問題の出題内容や出題方法等について、一層工夫してほしい。
- ・ 理科では、基礎的・基本的な知識及び技能を問う問題と思考力、判断力、表現力等を問う問題がバランスよく適切に出題されていた。今後も、観察、実験を取り上げ、基礎的・基本的な知識及び技能を問う問題と探究の過程を通して思考力、判断力、表現力等を問う問題のバランスを保ちつつ、科学的な見方・考え方を働かせる問題の出題内容等について、一層工夫してほしい。
- ・ 英語では、受検者が授業を通して身に付けた力を十分発揮できるよう、基礎的・基本的な知識及び技能を問う問題と思考力、判断力、表現力等を問う問題のバランスを考慮し、適切に出題されていた。今後も、聞いたり読んだりして得られた情報を踏まえて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現する力をみる問題の出題形式等について、一層工夫してほしい。